



ようである。

小滝を越えてゆくと左岸よりカレ沢が入る。上に8mの滝が見えている。ガレ場が出てくると本流の方にも滝が出てくる。まず3mの滝があり、その上で左岸から15mの滝をつけた小沢が入ってくる。そして10mの滝。右岸を直登する。その上の3mは何なくパス。ここがこの沢の核心部だ。

沢が平凡になった。しばらく進むと踏跡が沢を横切っている。ここでマタビをとる。秋の沢登りにはこういった楽しみもある。

カレ沢が4つ次々と合流し、沢が平坦になって水重も少なくなってきた。ここで廻行を打ち切る。 (記・

出合(10:15)——終了(11:20)

1982年9月15日

ガットオ沢

L:

観音堂沢沿いの林道を歩いて観音堂(廃村)に向かう。途中台風のためこわれたこの林道の復旧工事をしてた人たちから、ここらあたりの沢の様子を聞く。

観音堂より田んぼの中の道を通り沢に降りる。身仕度をして出発。沢の左岸ぞいには踏跡がある。小さなナメ2つを過ぎ、二俣に着く。右俣(ガットオ沢)にルートをとる。

出だしのF1 8mは左岸を直登。続いて傾斜のあるナメ沢が左へ曲がる所にF2 10m。こちらは右岸を直登する。沢はナメが続く。左岸より小沢が2mの滝とな

って合流し、続いて小滝がある。このあたり右岸に岩場が見える。F3 3m ナメは
何なくパス。なおもナメが続いて二俣となるが、本流の左俣へルートをとる。

所々ナメが土砂でうまっている中を登りつつける。小滝と傾斜のあるナメが交
互に出てきた。右岸に林業用の営林署の標識が出てくる。それに続いてまず右岸
に、続いて左岸に杉の植林地が出てきた。このあたりまでくると、もう沢は細い
流れでしかなく、所々やぶこぎのような所も出てくる。

11時過ぎに最後の二俣に到着。クラツ沢を下降するため、ここでは左俣にル
ートをとる。やぶこぎぎみに遡ると、沢の水もチョロチョロとなる。尾根が見えて
きた所に炭焼き釜あとがあり、ここから尾根に上がる。尾根上で昼食をとり、木
に登って現在地の確認をしたあと、クラツ沢への下降を開始する。

(記。

観音堂(9:00)——出合(9:05)——二俣(9:25)——尾根(11:35)

1982年9月15日
クラツ沢(下降)

L:

尾根上から下降を始めるとすぐ水が出てくる。本流に出るとすぐに小さなナメ
が切れ切れに出てくる。右岸に炭焼き釜あとをみる。ここからナメがガンガラ滝
まで(途中、土砂でうまっている所もあるが)続く。このナメは沢幅も結構ある
ので、少し暗いがなかなか良い景色だ。やがて滝が出てくる。F4 4m。なんなく
通過する。すぐにF³ 3.5m。これも軽くパス。このあたり、合流する支沢はいず
れも滝をつけている。F2 3m も何なくパス。依然ナメが続く。小滝1つを見るが
ガンガラ滝までずっときれいなナメの下降だ。13時15分、ガンガラ滝到着。手
前の小滝2つはなんなく下ったが、ガンガラ滝は直瀑で、クライミングダウンは
ので、アップザイレンにて下降する。すぐにガットオ沢出合。この先少し下降し
てから沢ぞいの道に上がり、観音堂にもどる。 (記。

下降開始(12:00)——ガンガラ滝(13:15, 13:40)——観音堂(14:10)